

## 全体授業研究会 振り返りより⑥

-6年(12月5日)-  
白島小学校 研修部

- 資料（教材）の選び方
  - 資料（教材）を吟味し、何に着目させると子どもが考えられるのかを考えるための「学び合いシート」の有効性を感じた。
  - 豊富な資料（教材）の中から、いかにねらいに迫るものを精選するかは、本当に難しいものだと思います。
  - 発想がおもしろい授業でした。
- 本時のねらいと本時の学習問題のつながり
  - 授業の方向性、落ち着き先を考えて、問いを立てなければならないと感じた。
  - 問いに対するまとめへの導き方が難しいと感じた。
- 資料提示の仕方について
  - 今回は、時代背景や状況がよく分かるように、視覚的な資料を用意し、見せ方も工夫されていたと思います。写真を大きく見せて、黒板に残しておくまとめの方法や映像の使い方など、いろいろ考えていきたいと思います。
- 協議会について
  - 3学級が授業をされたので、広く学ばせてもらうことができましたが、他の授業は、ほとんど見ていないので、話し合いについていきにくかったです。
  - 授業者の先生に、直接質問ができたこと、協力員の先生から、新たな授業の提案が聞け、非常におもしろかった。
  - 担当がたくさん、そして、とても深い内容について調べ、知ることで、授業をどうとらえるかと考えておられると感じた。

### 徒然なるままに…!! お付き合いください!

協議会会場に多数の先生がそろっておられたことに驚くぐらいに、徐々に何もなく全体授業研を行うことができました。

今回は、市小社研の研究協力員4名の先生が参加してくださいました。小難しいだけの私の話と違い、話が的確で分かりやすかったという声をいくつもいただきました。協力員に加わってもらいと、社会科の専門性と外からの客観的な見方から力添えいただけるというメリットがあると思います。協力員と一緒に授業をつくっていくスタンスですので、どしどしサポートいただきましょう。

さて、今回は、6学年の提案でした。教頭先生の手厚いサポートの下、教材にこだわり、じっくりと調べ、授業を練りながら、時間を掛けて研究を重ねてこられました。まさに、授業づくりの醍醐味と難しさを感じられる取組となったのではないのでしょうか。

今回の「東京オリンピック」は、招致と実現への人々の姿に心を動かされた先生方がこだわられた教材です。今回は、教材と授業づくりについて考えてみたいと思います。

授業構成には、三要素あります。小原先生は、これを「粉ミルク理論」で話されます。赤ちゃんを成長させるために必要な栄養(=内容・学力)を摂らせるために(=目標)、適切



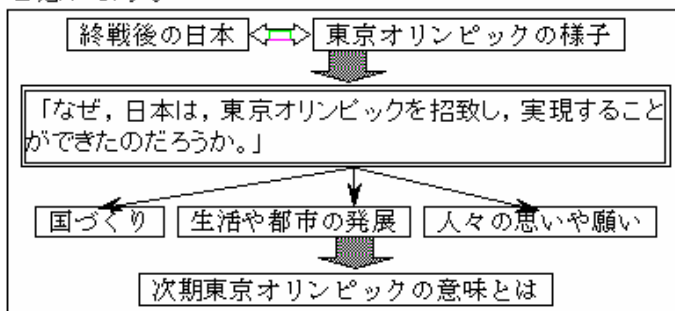


な粉ミルク(=教材)をどんな湯(=授業)で溶くのかを組み立てるのが授業構成であり、この成り立ちが授業論です。粉ミルクが適切でなければ、栄養がとれませんし、湯の温度や量が適切でなかったら、飲んでもらえません。したがって、目標に従って教材を選択し、授業という形に落とししていく必要があるのです。

授業づくりにおいて、熱心に教材研究され、子どもが飛び付くような事例・事象が見つかるものの、そこから学習すべき内容にまで至らないということがよくあります。教材ありきで授業をしたり、闇雲に活動を取り入れたりするのではなく、何について取り上げ、何をどう考えさせ、気付かせたいのかを授業者側が持つことが必要なのです。

今回の授業は、「東京オリンピック」を通して、戦後日本の復興と国づくりの歩みを考えるというものでした。東京オリンピックの招致・実現は、戦争によって壊滅的であった日本が20年足らずで、民主的で平和的で豊かな国として復興し、発展を遂げたことを世界に発信する意味を持っていました。一方、環境・人権・エネルギー・安全保障など、その後の日本は、発展とともにいくつかの課題をかかえてきました。そして、3.11東日本大震災。次期東京オリンピックは、これらにどう答えるかが問われているのではないのでしょうか。そこを考えることは、歴史の学習を終える今、過去を踏まえた現在、未来の日本を問うことになると思います。

単元構成としては、終戦直後の国内の状況と東京オリンピックの華やかさのギャップから、「なぜ、日本は、東京オリンピックを招致し、実現することができたのだろうか。」と問います。そして、東京オリンピックを招致・実現できたわけを「国づくり(政策)」、



「生活や都市の発展と人々の努力」、



「人々の東京オリンピックに対する思いや願い(招致・実現の意味)」という三つの観点から迫ります。さらに、その後、東京オリンピックで目指した国づくりが実現できたのかを考え、2020年開催の次期東京オリンピックの意味を問う学習を考えることができるでしょう。

単元は、単元全体で問う、言い換えれば、考えさせたい内容で構成することになります。米づくりが盛んなわけを問うのであれば、自然・地形、気候、歴史、人といった条件ごとに考えていくことになります。桑原卯之助が八木用水をつくったわけを問うのであれば、つくるに至ったいきさつ、つくる過程、つくった後の変化と「プロジェクトX」のように、ストーリーとしてつなぐことになります。

授業は、ストーリーで組むと言われます。どんな資料や事実から問いが生まれるか、その問いにどういう側面からアプローチするか、その結果、どんな問いにつながるか…というように、思考の過程をストーリーするのです。これは、先生方が教材研究において問いを探究された過程なのですから、それを授業で再現できるように単元構成すればいいということになるのです。

次回は、いよいよ、今年度最後の全体授業研となります。大とりの4年生、得意の短期集中でがんばります。次回の協議会は、何人かの代表の先生に協議をしていただき、その様子を参観するという形式で行おうと考えています。代表に選ばれましたら、パスなしですので、快く引き受けていただけると幸いです。